

第2回 釜南学校運営協議会記録

記録 関口 義和 (副校長)

- 1 日 時 令和元年8月28日 (火) 13:30~15:30
- 2 場 所 釜利谷南小学校 第一音楽室
- 3 内 容
- ①開会の言葉
 - ・ 学校長挨拶 田中 さくら 校長
 - ・ 学校運営協議会会長挨拶 井手 幹雄 委員長
 - ②研修会「自己開発とリフレクション」
 - ・ 講師 町支大祐先生 (帝京大学大学院 専任講師)
 - ・ グループワーク
 - ③閉会の言葉
- 4 参加者 井手 幹雄 (委員長) 天野 旭 (副委員長) 野中 絵里子 (PTA 会長)
 高橋 弘子 茶谷 知子 加藤 千春 相澤 利隆 春口 廣
 梅田 研一 (釜利谷中副校長) 遠藤指導主事 (育成課)
 田中 さくら (学校長) 関口 義和 (副校長) 教職員 計32名参加

5 流 れ

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>研修の前に、約束を確認。リフレクションとは、「内省」であり、「反省」と異なる。反省と後悔する場では、楽しくない。</p> | <p>楽しさの中に、学びがある。最初のワークは、資料の中の「の」を見つけること。皆さん、戸惑いながら探しました。</p> | <p>2回目は、「は」を探す。作戦を生かし、集中して取り組む。協力もよし。どのグループも精度が上がりました。</p> |
|  |  |  |
| <p>出来事を振り返って、学びを得て、次に生かす、これこそが、リフレクション。反省とは違うということを学びました。</p> | <p>次のワークは、レゴブロックで体験を表現する。戸惑いながら、レゴを手に取り、思うがままに組み立てました。</p> | <p>「ここ3年間で、地域・学校・こどものために行ったこと」がお題。皆さん、何を表現したのでしょうか。</p> |

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>悩みながらも、手は止まらず。言葉だけで考えるよりも、物を使うことで、思考したものが具体的になっていきました。</p> | <p>これは、何を表現したのでしょうか。楽しそうな場所に、人が集まっているようです。</p> | <p>それぞれが作った作品を説明したり、インタビューしたりしながら、その人のよさを机に書き込みました。</p> |
|  |  |  |
| <p>それぞれ子どもたちのために行ったことを認め、メッセージとしてグループのメンバーに贈りました。</p> | <p>最後のワークは、イメージカードを使って、今の地域や学校、子どもたちとの関係を表す。言葉だけよりイメージは膨らみました。</p> | <p>本日のまとめ。失敗しないために、失敗から学ぶことも大事だが、成功するために、成功から学ぶことも大事。視点や思考が揺さぶられました。</p> |

6 感想

- ・今まで受けたことのない感じの研修でおもしろかったです。普段、振り返りをすることがないということを実感しました。視点を変え、「強み」ということを意識しながら成長していきたいと思いました。(委員)
- ・いろいろなワークに取り組み、あっという間に時間が過ぎました。「話し合い」「対話」することの楽しさを感じました。特に興味深かったのは、「フォーカスすることが違うと見方・考え方が大きく変わること」です。自分の気持ちの持ち方を変えるには、意識的にフォーカスする視点を変えてみることも大切だと感じました。(職員)
- ・参加して先生方との一体感が増しました。短時間の研修としてはよい企画と思います。今回の研修を踏まえて、学校の中でフォロー（どうこの研修を生かすか）をお願いします。(委員)
 - ・「強み」に着目して『見る』ことは、具体的な方法で新鮮でした。ついつい反省しがちな日々をポジティブにリフレクションするほうが、前向きに事が進むと思います。子どもを日常観察する際も「強み」を視点にしていきたいです。(職員)
- ・いろいろなワークショップで自分のことを振り返り、話をする時間となりました。話をするためには、出来事をいろんな角度から振り返らなくては行けなく、脳のいろんな部分を刺激したと思います。先日参加した研修でも、成功体験の大切さや強みに着目した児童支援の方法などを学んだので、プレイフル・ラーニングという考え方が、これからの中心になってくるのかと感じました。(職員)